



Vol. 14  
2026

# MIDORINET KUMAMOTO

熊本県土地改良事業団体連合会

「農業を下支えする、人と人とのつながり」

私たち水土里ネット熊本は、子どもたちの明るい未来を見据え、職員一人ひとりがこの想いを胸にし、農業・農村を元気にする様々な取り組みをおこなっています。これからも私たちの活躍に是非ご期待ください。

*Midorinet are fabulous!*

～水土里ネットは最高だ!～

熊本の農業農村を  
支える水土里ネット

KUMAMOTO  
UKI  
KAMIMASHIKI  
TAMANA  
KAMOTO  
KIKUCHI  
ASO  
YATSUSHIRO  
ASHIKITA  
KUMA  
AMAKUSA



熊本県土地改良事業団体連合会

水土里ネット熊本 ～農村に、彩りを。～



住所：熊本県熊本市北区龍田陳内3丁目15番1号  
TEL：096-348-8801 FAX：096-348-8011  
URL：https://www.higosanae.or.jp/



## RECOMMEND

01 令和7年度農業農村整備優良地区  
コンクール  
中山間地域等振興部門 へ

### 天草市 豆木場地区を推薦



## AWARD

06 第9回インフラメンテナンス大賞  
メンテナンスを支える活動部門

### 「農林水産大臣賞」 受賞

熊本平野南部土地改良区・熊本県  
水土里ネット熊本が共同受賞



## RECOGNITION

06 令和7年度 世界かんがい施設遺産に

### 山鹿市 湯の口ため池・井手

国際かんがい排水委員会 (ICID) が認定



## ORGANIZE

11 つながる、広がる、農業農村の力。

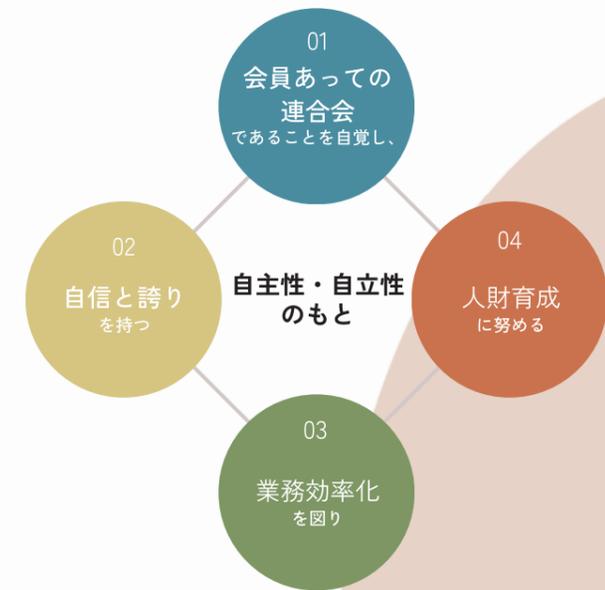
### 男女共同参画推進大会 inくまもと

開催

## 水土里ネット熊本とは

**水** 水土里ネット熊本は、技術者集団という枠に留まらず、地域の豊かな水・土・里を未来に繋げ、より良い農業・農村の在り方を熊本から全国に発信しています。そのため、職員一人ひとりが自主性・自立性のもと、会員あつての組織であることを自覚し、土地改良事業のプロフェッショナルとしてのプライドを持ち、最新鋭のツールを用いた効率的な業務推進と、人(財)育成に努めています。全国各地で震災や水害等、大規模な自然災害が多発しておりますが、このような困難な時代においても、私達はその歩みを止めず、農業の収益性向上・競争力強化並びに防災・減災・国土強靱化を目指した「産業政策」と農村の地域資源の保全・活用や地域社会の維持・活性化を目指した「地域政策」を支援し、熊本県の農業・農村の政策実現に大きく貢献してまいります。

## 会務遂行スローガン



## 目次 - Table of Contents -

### 産業政策

- ・ 基盤整備事業による波及効果の発揮を見据えた基礎的支援 … P1
- ・ 未然の備え、確かな支え ～有事に強い技術と支援のチカラ～ … P3
- ・ 国土強靱化に向けた農業水利施設等の整備を支援 … P5

### 地域政策

- ・ 農業・農村の多面的機能を次世代に繋ぐ地域や土地改良区の活動を支援 … P7

### 運営強化

- ・ 土地改良区の運営基盤強化に関する支援 … P9

### その他

- ・ 県内及び全国へ、水土里ネットの役割りをPRする活動 … P11

# 基盤整備事業による波及効果の発揮を見据えた基礎的支援

将来を見据えた基盤整備事業との関わりが

農業農村を元気に

熊本の基幹産業である農業。持続的な発展には、効率的な営農を可能にする基盤整備の計画的な水土里ネット熊本は、これまで県内各地域の基盤整備事業に対し、構想段階から調査、設計、換かつ長期的な支援を続けています。長期的な関わりは、農産物の生産性向上や担い手育成、高収益作物の導入を可能とするとともに備の要である農地利用の集積・集約と併せた大区画化のさらなる推進は、作業の省力化やコスト削減は、事業着手前から熊本県とともに、換地業務や土地利用調整指導を通じて基盤整備と農

実施と、施設の長寿命化への取り組みが不可欠です。地といった全工程に深く携わってきました。事業完了後においても施設の維持管理を支援するなど、多角的、雇用の創出や地産地消の活性化など、地域全体を元気にする波及効果も生み出しています。特に、基盤整備を通じて、営農の効率化を大きく後押しします。土地利用の高度化の両面から県内各地の地域農業を力強く下支えしていきます。

水土里ネット熊本と  
基盤整備事業の関わり



## 基盤整備が生み出す波及効果 -天草市 豆木場地区-

天草市下島中央に位置する豆木場地区は、平成初期のほ場整備と河川改修により営農基盤が大きく改善されました。この効果は隣接集落にも広がり、宮地岳町全体の農地の9割を超える約90haが整備されました。耕作者の高齢化や兼業化等が加速化する中、平成18年に農事組合法人「宮地岳営農組合」を設立。稲作やWCS（飼料用稲）、蕎麦などの栽培に加え、スマート農業の導入による、省力化とコスト削減を進めています。若手代表への世代交代や農地バンク活用による流動化も推進中です。地区から地域へ、豆木場地区で始まった「かかし作り」は、今では地域の「かかし祭り」へと展開。本法人が中心となって取り組む、宮地岳産の農作物を活かした商品開発やドローン配送による高齢者支援など、多岐にわたる活動で、いつまでも活気あふれる地域として発展しています。

### 令和7年度農業農村整備優良地区コンクール (中山間地域等振興部門) 推薦地区

- 農業農村整備優良地区コンクール 受賞履歴 (令和以降)
- △令和元年度：八代市鶴喰地区 (全国水土里ネット会長賞)
  - △令和2年度：山鹿市岳間地区 (農村振興局長賞)
  - △令和3年度：和水町十町地区 (農村振興局長賞)
  - △令和4年度：宇城市大口地区 (農村振興局長賞)
  - △令和5年度：菊池市佐野地区 (農林水産大臣賞)
  - △令和6年度：山都町名ヶ地区 (農村振興局長賞)
  - △令和7年度：天草市 豆木場地区 (推薦地区)



## 大区画化並びに農地利用集積の向上を支援 -熊本市 甲斐口地区-

熊本市南西部に位置する甲斐口地区は、二級河川除川と千間江湖川に挟まれ、標高0.0~1.0m程度の低平な水田地帯です。本地区では、平成25年度から事業に着手し、整備前は10~20a程度であった区画を、杭畦畔の設置により1区画当たり約2haの大区画へと再編しました。あわせて、農地の約7割を集落営農組織へ集積するなど、営農意欲の高い取り組みが進められており、地域の基幹産業として大きな発展を遂げています。来年度には換地計画書の作成を予定しており、令和9年度の事業完了に向けた取り組みが着実に進展しています。



▲ブロッコリー畑



▲ブロッコリー収穫の様子

■苦勞を乗り越え、確信に変わった「整備の価値」  
計画当初は賛成・反対の声が入り混じり、合意形成には多大な努力が必要でした。しかし、整備を終えた現在、地元農家からは「あの時、最後のチャンスを逃さず取り組んで本当によかった」という声が上がっています。「高齢化が進み、自分たちだけでは維持できない。大区画化したことで営農組合や農業法人が土地を預かりやすくなり、農地を荒らすことなく次世代へ繋ぐことができました。もし昔のままだったら、今頃は耕作放棄地だらけになっていたかもしれません」と、組合長の西村さんは当時を振り返ります。

■地元と関係機関の絆が生んだ、多様な農業  
整備後は排水対策やパイプラインの導入により、利便性が飛躍的に向上しました。主力のWCS（飼料用稲）に加え、ブロッコリー、キャベツ、ほうれん草といった高収益作物の栽培も活発化。トラクタの横付けが可能になったことで、作業効率と収益性は格段に上がっています。この事業の成功の裏には、行政並びに土地改良区や土地改良連合会など関係者の粘り強いサポートがありました。「連合会の皆さんがフットワーク軽く動いてくれたからこそ、複雑な権利調整も乗り越えられた」という言葉通り、現場と関係機関が二人三脚で歩んだ結果が、この美しい大区画の風景に表れています。

「最後のチャンスが、今を支える」  
～甲斐口地区が踏み出した大きな一歩～



甲斐口営農組合 組合長 西村佳純

波及効果  
01

## スマート農業



天草型  
スマート農業  
ビジョン

天草市とJAと連携し「天草型スマート農業ビジョン」に基づき、令和元年度からスマート農業を県内でもいち早く導入。営農管理システムで農地情報を視覚化し、ドローンと栽培管理システムの連携により施肥・農業散布の効率化・負担軽減を実現しました。

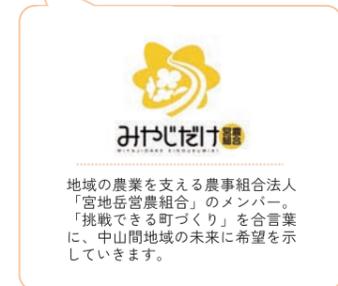


スマホで確認

波及効果  
02

## ブランド化

宮地岳営農組合は、「宮地岳ブランド」の推進に注力し、米焼酎や菜種油などの商品開発・販売を行っています。「宮地岳きなこ」の売上は3年で約6.5倍に伸長しました。



道の駅  
「宮地岳ががしの里」

波及効果  
03

## 地域振興

基盤整備によって育まれてきた美しい農村景観や人々の繋がりは、宮地岳町の象徴である「かかし」の誕生にも大きく寄与しています。平成25年から豆木場公民館を拠点に「宮地岳地区振興会」主催により、「かかし祭り」が開催されています。令和3年に道の駅「宮地岳ががしの里」が誘致され、2会場体制となりました。祭り期間中には町の人口を大幅に上回る約3万人が訪れる一大観光イベントに発展。毎年異なるテーマで住民が協力し、ユニークな「かかし」を手作りする創作活動として定着しています。かかしウォークや体験イベントも同時開催し、整備された農村空間を舞台に、地域資源を最大限に活用した住民主体による持続可能な地域づくりの好事例として注目されています。



かかし祭



## 基盤整備事業の一番の理解者であり続けることが未来の農業の力に

令和7年9月に閣議決定された土地改良長期計画においては、中山間地域における区画整理の推進とともに、担い手の生産性向上や持続的な農業経営の確立に向け、圃場の大区画化が重要であることが提言されています。水土里ネット熊本は、こうした国の方針を踏まえ、熊本県と共に、意欲ある担い手への農地利用の集積・集約を一層支援し、効率的で競争力のある農業基盤の整備に取り組んでまいります。今後も基盤整備事業の重要性を最も理解する立場として、地域に寄り添い、熊本県が掲げる「食のみやこ熊本県」の創造に大きく貢献していきます。

# 未然の備え、確かな支え～有事に強い技術と支援のチカラ～

## 突発的な災害への備えと支援

## R7.8月豪雨災害における支援並びに災害対策室の設置

私たち水土里ネット熊本は、平成28年の熊本地震や令和2年7月豪雨災害という未曾有の大災害を経験しています。これらの教訓を胸に、自然災害に対する備えを万全とするため、日々測量・設計技術の研鑽並びに災害等における支援体制の強化を図っています。令和7年8月豪雨災害においても災害発生直後の初動対応や関係機関との協力・要請、そして円滑な災害査定受検に向けて災害対策室を設置し、県内各市町村への技術的支援を行いました。



県内では、特に令和7年8月10日夜から11日にかけて線状降水帯が連続して発生し、激しい大雨が降り続いたことによる甚大な浸水被害が発生しました。  
甲佐町では6日から11日にかけて690ミリの降水量を観測し、玉名市市明町では3時間で284ミリの雨が降るなど、各地で観測史上最大の降水量を更新。  
気象庁は県内5市2町（玉名市、長洲町、宇城市、八代市、水川町、天草市、上天草市）に対し大雨特別警報を発令しました。  
この豪雨により、住宅浸水（床・床下）や道路の冠水・陥没、土砂崩れによるライフラインの寸断、農地の冠水や農業用排水路の閉塞・寸断（土砂堆積・流入）、頭首工損傷・損壊など甚大な被害が発生しました。



▲8月豪雨災害に係る団結式

## 令和7年8月7日～11日 豪雨災害発生



水土里GISを活用した現地調査

令和7年8月14日～

令和7年8月11日

災害対策室事前始動  
(4名1班体制)

令和7年9月8日～

災害対策室事前始動  
(8名2班体制)

令和7年9月17日



令和7年9月25日



令和7年9月29日～

令和7年10月1日

土地改良事業団体連合会九州協議会への派遣依頼  
佐賀県・大分県・宮崎県・沖縄県より、被災した自治体へ技術派遣し、円滑な災害査定を支援



## 「くまもと水土里GIS」を活用した災害箇所の共有化

国、熊本県、市町村、土地改良区、および各農業団体で構成される熊本県水土里情報利活用協議会は、データ共有を実現する新システム「くまもと水土里GIS」を、令和7年度より本格運用しています。本システムは、農業水利施設等の適切な保全管理の実現に向け、利用団体の業務効率化のためオンライン方式を導入して整備されました。特に、令和7年8月豪雨の際は、初期調査に活用され、大きな効果を発揮しました。現地調査アプリを活用することで、現場作業班と事務所作業班で被害の位置や写真などをリアルタイムで確認できました。この現地調査アプリは位置情報とGoogleマップなどと連携でき、現地までのルート検索が可能であるため、測量時の現地案内がスムーズになったという報告が挙がっています。写真による被災範囲の再確認や県・市町村との連携時における重複調査の回避など、迅速な災害対応に資するメリットが確認されました。今後も「くまもと水土里GIS」を最大限に活用し、会員の皆様と一体となって熊本県内の農業振興に努めてまいります。

## 災害対策のスペシャリストとして

令和7年8月豪雨災害においても災害査定に関しては一定の目的ができましたが、災害復旧はこれからが本番となります。水土里ネット熊本は、実施設計をはじめ復旧完了に至るまで、引き続き惜しみない支援を続けてまいります。あつてはならない災害ですが、これまでも、そしてこれからも、市町村や土地改良区の皆様に寄り添い、「無くてはならない災害の備え」として責務を果たし続けます。

被災した自治体への技術的支援

本会では、災害業務に特化した専従体制として、本会庁舎3階に「災害対策室」を設置し、段階的に技術職員を増員しました。  
県内21市町村から3000件を超える査定設計書作成業務の依頼を受けており、そのうち4市町村からは技術職員派遣の要請にも対応してきました。  
円滑な災害査定受検に向け、経験豊富なスタッフが各地で査定設計書の作成並びに査定対応を実施しました。

▲災害対策室本格始動（16名4班体制）

本会職員派遣  
(山都町、御船町)  
沖縄土連派遣  
(美里町)

佐賀土連派遣（山都町）  
宮崎土連派遣（御船町）  
大分土連派遣（長洲町）

令和7年10月9日～31日

令和7年11月4日～

## 令和7年11月10日～ 災害査定対応

▲現地査定対応

▲机上査定対応

▼氷川排水機場の現地派遣対応

▼8月豪雨災害に係る防災会議

# 国土強靱化に向けた農業用水利施設等の整備を支援

## 農業水利施設等の

## 保安全管理に関する技術的支援

農業水利施設は、食料の安定供給を支える基幹施設であるとともに、洪水防止、水質浄化、防火用水などの多面的機能を有し、地域にとっても重要な社会資本となっています。

しかし、県内の多くの施設は造成から長い年月が経過しており、特に排水機場では、『168』箇所のうち約7割に当たる『115』箇所で耐用年数20年を超過(うち80箇所においては30年以上が経過)し、突発事故等による湛水被害も危惧されるため、計画的な施設更新が急務となっています。

ため池についても、県下800箇所以上の防災重点農業用ため池において、約580箇所のため池が何かしらの対策が必要と報告されています。

水土里ネット熊本は、これらの施設を次世代へ引き継ぐべき地域の重要資産と捉え、適切な維持管理と計画的な保全・更新を推進してまいります。

世界かんがい施設遺産  
「湯の口ため池・井手」

国際かんがい排水委員会 (ICID) は、「湯の口ため池・井手」を世界かんがい施設遺産として新たに認定することを決定しました。



▲世界かんがい施設遺産の認定証

撮影：写真作家 上野弘喜

### 導く 【診断・管理指導・研修・教育 【土地改良区体制強化事業】】



▶施設管理者に対し、操作運転、点検・整備、機能保全等の現地指導を実施。

### 防ぐ 【点検【排水機場等管理業務】】



▶施設の適切な点検が不具合の早期発見に繋がりを、施設の機能保持及び事故発生リスクを低減。

### 補う 【整備補修 【土地改良施設維持管理適正化事業】】

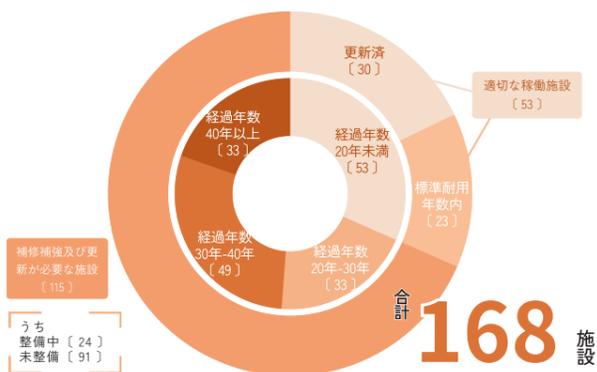


▶施設の定期的な整備補修を実施。施設管理者の管理意識高揚、既存施設の機能保持と長寿命化を図る。

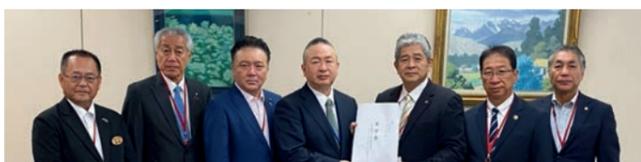
これまでの「導く」、「防ぐ」、「補う」の取り組みが、県内各地の農業水利施設等の機能を適切に維持・保全し、農業用水の安定供給や施設の長寿命化によるライフサイクルコスト低減に繋がっています。それらが、多彩で効率的な営農の実現に寄与するとともに、農村地域の安全・安心な暮らしにも大きく貢献しています。

熊本県内の排水機場箇所数と経過年数の関係  
及び整備状況 (R8.1月時点)

単位：箇所  
提供：熊本県



### 農地の保全と、わたしたちの暮らしのために



＜緊急要望活動の実施＞  
令和7年10月23日～24日、熊本県農地防災事業推進協議会が排水機場の早期復旧と機能強化を中心に、被災農地・農業用施設の復旧支援を求め「農林水産省、総務省、財務省および関係国会議員等」に対して緊急要望活動を実施した。

## 第9回インフラメンテナンス大賞 「農林水産大臣賞」受賞

「GIS」と「ノーコードアプリ」を活用した  
データ蓄積による土地改良施設の効率的な保安全管理



このたび、熊本平野南部土地改良区における「くまもと水土里GIS」を活用して、施設の日常点検や突発事故の記録、機能診断結果等情報を共通のプラットフォームのもとで「見える化」し、効率的な施設の保安全管理に努めた取り組みが評価され、土地改良区・熊本県・本会とともに「農林水産大臣賞」を受賞しました。

#### 水土里ビジョンの柱

- ① 地域の農業生産基盤の保全
- ② 土地改良区の運営基盤の強化

#### 将来の保安全体制を構築するために ～水土里ビジョンの取り組み～

本会において、令和7年度は5ビジョン(10土地改良区)の策定に向けて取り組んでいます。

- ①美里地域 (美里町)
- ②八代平野地域 (八代平野北部・八代平野南部・八代平野連合)
- ③八代金剛地域 (八の字・麦島・八の字連合)
- ④熊本平野南部地域 (熊本平野南部)
- ⑤氷川地域 (八代平野北部・氷川町・氷川下流連合)

※ ( ) は土地改良区・連合

次世代へ豊かな農地と水を繋ぐため、組織基盤を固め、地域とともに歩む持続可能な姿を目指します。

## 農業水利施設等のオールラウンダーとして

これからも水土里ネット熊本は、これらの施設が突発的な災害に耐え、必要な機能が適正かつ安定的に発揮されるよう、施設の診断・管理指導、整備補修、点検、技術者派遣等、幅広い技術的支援を行ってまいります。

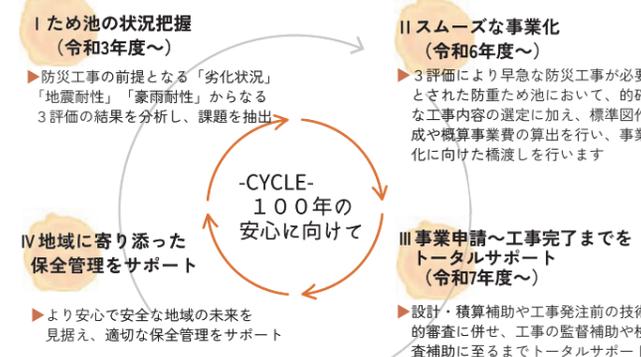
### 「ため池」を後世に繋ぎ 地域の未来を整える

令和2年10月に防重ため池の防災工事推進に関する特別措置法が施行され、令和12年度末の法期限に向け集中的かつ計画的な防災工事が推進されています。

このような情勢の中、本会は令和3年度以降の実績として、県下全域全ての防重ため池劣化状況評価を行うとともに、7市町67池(熊本市・玉名市・南関町・玉東町・宇城市・山都町・益城町)の構想設計、2市町5池(玉名市・和水町)の基本設計、4市町7池(南関町・益城町・宇土市・天草市)の実施設計を請負い、市町村を強力に支援しております。

また、ため池サポートセンターによる防重ため池の現地パトロール、管理者からの相談対応や、指導・助言に加え、1,400池を超える一般ため池に関する現地調査も行っております。

公益性と社会的信頼を備える水土里ネット熊本は、これまで培った繋がりや技術を最大限に活用し、皆様が将来を見据えた適切な「保全」と防災工事を推進できるよう、今後も全力で寄り添い支援してまいります。



令和7年6月熊本県農地防災事業推進協議会並びに熊本県ため池協議会による合同・要請要望活動(自由民主党 森山幹事長 令和7年6月当時)



# 土地改良区の運営基盤強化に関する 支援



農業・農村を支えること、それは土地改良区と寄り添い、ともに歩むこと

食料の安定供給の基盤として必要不可欠な土地改良施設を管理する県内各地の土地改良区。現在、その土地改良区は組合員の減少や高齢化、土地持ち非農家の増加等により組織力の低下を招き、将来にわたる土地改良施設の適切な維持管理や更新が危惧されています。また、土地改良区等においては、複式簿記移行から数年が経過し、会計処理に係る理解が深まっております。そのため、高度な相談も寄せられ、より専門的な支援が必要となっております。

水土里ネット熊本は、本会の会計指導員や顧問税理士とともに、複式簿記の導入による財務基盤の強化を初め、紛争処理等のための相談窓口の設置、土地改良区の役職員等に向けた各種研修会の企画・開催等を実施するなど、万全なフォロー体制と豊富な支援メニューで土地改良区の運営基盤の強化に努めています。私たちは、これからも土地改良区の皆様と寄り添い、ともに歩むことで、熊本県の農業・農村を支え続けていきます。

## 指導監査の実施

～「寄り添う監査」で安定した運営を～

土地改良法改正に伴い員外監事の選任が必要となりましたが、その免責要件の一つとして土地改良区と指導監査契約を結ぶことが挙げられます。そのため、複数の土地改良区から本会に指導監査を求める声が寄せられておりました。土地改良区の運営・財務基盤の強化に寄与するため、令和6年度から本会会計指導員による指導監査業務を開始しました。



第三者の観点を活用し  
運営リスクを  
低減しませんか？

**-寄り添う取り組み-**  
「指導監査」業務の  
チラシを作成しました。  
本会が、土地改良区の安定した運営  
にお力添えします。

### - 指導監査実績 -

これまでの実績として、令和6年度には  
**3土地改良区**、令和7年度には**5土地改良区**  
の指導監査を実施してまいりました。  
これからも引き続き寄り添い、支援して  
まいります。

水土里ネット熊本が運営・会計に係るリスクの  
回避・低減をサポートします



## 財務基盤強化への支援

～会計指導員による万全なフォロー体制～

土地改良区等において、複式簿記による財務基盤が強化されるよう、農林水産省から認定を受けた会計指導員が土地改良区へ順次訪問し、複式簿記や経営分析に関する指導を実施しています。また、土地改良区等において、複式簿記への理解が深まることで生じる疑問点や会計処理に対する不安等を解消するため、専属の係（財務指導係）が主体となって複式簿記に関する研修会の企画・開催や、会計に関する相談に対応しています。きめ細やかな支援を実施する体制は万全です。



## 「令和7年度 水土里ネット役職員研修会」の開催

～さらなる基盤強化を目指して～



令和7年11月20日（木）、メルパルク熊本において、本会と熊本県の共催による「令和7年度 水土里ネット役職員研修会」を開催しました。本研修会は、県内土地改良区（連合）の運営基盤強化を目的として実施され、各土地改良区（連合）役職員122名の参加がありました。私たちは、研修会の開催を通じて、多岐にわたる分野から講師を招聘し、会員の皆様に様々な情報を提供することで、今後の業務遂行を力強く支えてまいります。

### - Program -

- 開会挨拶（水土里ネット熊本 久保田常務理事）
- ①「地域の未来を拓く農業農村整備の推進力」  
（熊本県農林水産部 農村振興局 農地整備課 大森首席審議員兼課長）
- ②「不正が起きない組織づくり」  
（水土里ネット熊本 財務経理課 西岡課長）
- ③「農業基盤整備資金について」  
（日本政策金融公庫 熊本支店 農林水産事業 融資第二課 伊藤課長 融資第一課 齊藤様 融資第三課 藤澤様）
- ④「農業負担金軽減支援対策事業について」  
（全国水土里ネット 管理システム研究部 阿部参与）
- ⑤「土地改良施設の維持管理について」  
（熊本平野南部土地改良区 久我事務局長）
- 閉会挨拶（熊本県 農林水産部農村振興局 永田局長）

### -元農林水産省農村振興局長 太田様 講話- 水土里ネットの未来に向けて



元農林水産省農村振興局長  
太田信介様

役職員研修会の終了後、本会主催による特別講演会を開催しました。本講演会は、熊本の水土里ネットを次世代へつなぐための方策を参加者と共に模索することを目的としています。講師には、元農林水産省農村振興局長の太田信介様をお招きし、「熊本の水土里ネットを未来に！～水土里ネットの役職員の皆さんと考える～」と題してご講演いただきました。講演は、土地改良の歴史的意義や、未来を見据えた「願望実現型（バックキャスト）」の思考法、そして広報活動の重要性について提言をいただきました。会場からも意見や質問が寄せられ、熊本の水土里ネットの未来に向けた活発な意見交換の場となりました。

# 県内及び全国へ、水土里ネットの役割りをPRする活動

## くまもと水土里ネット女性の会

女性の活躍が  
農業・農村をますます元気に

「くまもと水土里ネット女性の会」は、平成30年度に発足した県内の土地改良区や熊本県並びに本会の女性職員（現在97名）による組織です。会員同士の交流や研鑽を通じて、女性が事業の中核として活躍できる環境づくりを進めるとともに、広報活動などを通じて豊かな農村づくりに貢献することを目的としています。



### つながる、広がる、農業農村の力。 男女共同参画推進大会 in くまもと

～私たち、ひとりひとりが輝く  
水土里ネットの未来をつくろう～

令和7年11月4日～5日にかけて、全国水土里ネット女性の会及びくまもと水土里ネット女性の会が主催となり、農業農村における男女共同参画と女性の活躍の重要性を全国へ発信することを目的に、ここ熊本県で開催されました。基調講演やパネルディスカッション、現地研修を通じて、多様な人材が地域を支える意義を共有し、持続可能な農業農村と水土里ネットの未来について考える機会となりました。



▲大会の様子 ▲熊本県大森首席審議員兼課長 ▲大会の様子 ▲宇城市土地改良区田尻様 ▲交流会の様子 ▲本会 竹崎会長 ▲現地研修(阿蘇コース) ▲本会 酒瀬川理事 ▲現地研修(熊本コース) ▲全国水土里ネット女性の会 西会長

「くまもと水土里ネット女性の会」  
森下ひとみ会長

令和7年11月4・5日で開催された「男女共同参画推進大会 in くまもと」は、熊本県、土地改良連合会のご協力のもと、無事に閉会することができました。本会の会員、事務局の皆さんのパワーと、横のつながりの必要性を実感できた大会となり、参加者の皆様にも熊本パワーを感じていただけたことと思います。今年度で会長を退任いたしますが、会員、事務局の皆さまに引張ってもらいながらの2年間で心より感謝しています。くまもと水土里ネット女性の会はますます元気になっていくことと思えます。これからも女性ならではの視点で元気に地域の活性化に取り組んでいく所存です。今後とも、くまもと水土里ネット女性の会をよろしくお願いたします。

くまもと水土里ネット女性の会の  
Instagramを開きました！▶



## 水土里ネットの魅力为全国へ



水土里ネット熊本は、みどり通信、ポスター、広報誌「大地」、ホームページ等を通じ、会員情報や本会の活動等について県内及び全国に幅広く水土里ネットの魅力を発信しています。



- 1. 本会ホームページ
- 2. 「みどり通信」
- 3. 本会広報誌「大地」



農業・農村  
×  
教育

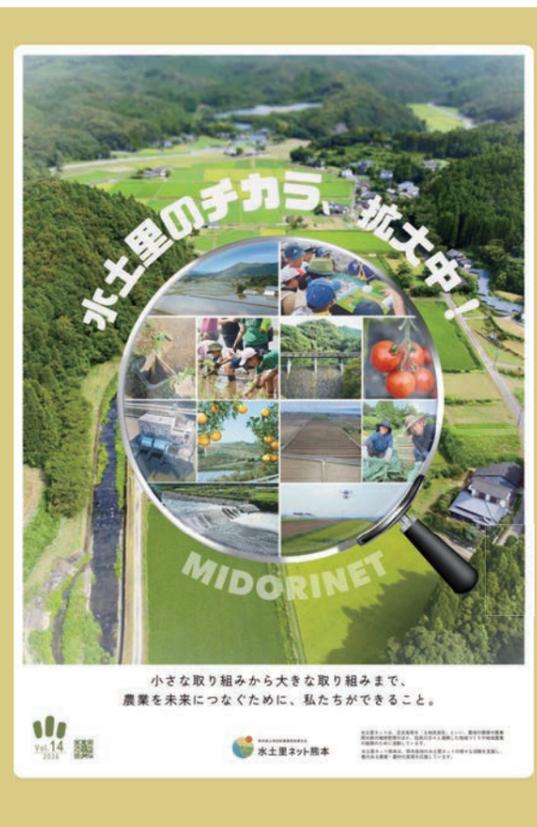


- 1. 田んぼの学校 in こうのみぞ
- 2. 龍田西小学校2年生による「まちたんけん学習」
- 3. 田んぼの学校2025 in 白川中流域
- 4. 森林の学校 in いつき

## 「くまもとの水土里ネット」ポスター

-Production record-  
SINCE2012

県内土地改良区の活動と併せて農地・農業・伝統文化、旬な話題等について、写真やコミュニケーションワードなどを用いてわかりやすく表現したもので、広く一般県民に土地改良区（連合）の存在意義等をPRすることを目的として制作しています。



小さな取り組みから大きな取り組みまで、  
農業を未来につなぐために、私たちができること。

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	

14	01 H24年度 活動が地域、熊本、日本、地球に寄与
	02 H25年度 多面的機能の発揮
	03 H26年度 地下水と土の保全
	04 H27年度 強い農業と活力ある農村
	05 H28年度 災害に負けない農業・農村
	06 H29年度 笑顔あふれる農業・農村
	07 H30年度 平成で果たした役割と新たな時代への展望
	08 R1年度 農村の美しさを影で支える水土里ネット
	09 R2年度 どんな時代でも立ち上がる
	10 R3年度 田んぼのチカラが地域を守る大きなチカラに
	11 R4年度 みどりのチカラ、みんなにトドケ。
	12 R5年度 農業の美しさを味わう
	13 R6年度 緑の下の力持ち
	14 R7年度 水土里のチカラ、拡大中！

## R8 vol.14

「水土里のチカラ、拡大中！」をテーマに、虫眼鏡のフレームの中に、大区画化やスマート農業、防災・減災（排水機場、ため池）など、新たな土地改良事業長期計画で掲げられた政策目標に関わる写真を配置しています。土地改良区の取り組みがこれまで以上に広がっていく様子を表現するとともに、虫眼鏡を通して農業を支える土地改良区の役割や魅力を、より多くの方に知ってもらいたいという思いを込めて制作しました。写真同士を白いラインで区切ることで、農地の区画をイメージさせる構成としています。